川口町公民館報

公民館報

第45号

発行人 星野輝欽
編集人 金子真
印刷所 山静堂印刷所

今年の稲作は

耕運機の音がにぎやかに聞え、田植えもはじまり、いよいよ秋の収穫を目ざして利鎌をふるうときがきた。夏の終りから秋にかけて台風やその他災害が大小にかかわらず予想されるが、ともあれ実のりの秋を夢みてけんめいにとりくんでいる農家の皆さんに、今年の稲作はどうだろうかということで小千谷地区農業改良普及所の川瀬三夫氏にきいてみた。

「長期予報により見た栽培上の注意事項」

雪の名所魚沼も今年も陽春の余慶を受けてか、融雪も早く、苗代の播種きも昨年に比べて稍早目に行なわれた。

苗代では発芽不良、生育の不斉（山間地）や畑苗代、保温折衷（平坦地、中間地帯）で高温障害による若干の被害もあつたが、全般的には大過のない経過であつた。

之から愈々本田へとスタートが切られるのであるが、之が管理に対しては気象予報、各指導機関の指示に注意し、今年も例年の豊作を継続し、曲り角に来たと云はれる農業経営の基盤確立に務めてもらいたいと思う。

去る三月下旬発表された長期予報は、大部分の方が新聞ラヂオ雑誌又はテレビ等で既に御承知の事と思いますが、一応ここに掲げてみると次の通りです。

○5月〜7月の全般概況

1. 今年のつゆは平年より早目に始まりそうですが6月はつゆの中休みもあり雨量は少目となりましょう。
2. 7月のつゆ明けは多少おそく一時前線の活発となることもあつて雨量の多くなる傾向があります。
3. 気温はこの期間を通じ一般に高目ですが五月下旬六月後半それに七月にも一時的低温の現れることがあります。

○5月概況

下月にはつゆのはしりがありましょう気温は下旬に一時低温が現れますが月を通じては平年並かやゝ高く降水量は平年並か多目、日照は平年並の見込みです。

○6月概況

梅雨活動はやゝ不活発でつゆの中休みもある気温は月の後半一時低くなりそうですが月を通じての平均気温はやゝ高い。降水量はやゝ少なく又日照はやゝ多い見込みです。

○7月概況

梅雨前線の活動が活発となり降水量は多目になりそうです。つゆ明けは中旬末から下旬初め頃にかかる見込みでその後は夏型の天候となりましょう。気温は上旬末と中旬末頃一時低温の現れる傾向がありますが月を通じては平年並、降水量はやゝ多く又日照は平年並の見込みです。

○8月〜10月概況

比較的天気の良い日が多い気温は平年並か高目であるが八月下旬一時低温の時もある、降水量は全般的に少な目とみられるが俄雨又は台風による一時的な強雨もある、九月中旬頃までは良い天気の日があり残暑もきびしいと見込まれるが以後は気温は平年より低目で又降水量も多いと見込まれる

田植……入梅は五月末（最近の修正）となるので、五月末以降あまり好天の続くことも期待出来ない、苗さえ充実して（早生三〇日〜三五日中晩生三五〜四〇日）しているならば入梅前の好天を利用して植えるのがよい。五月末から植える場合は出来るだけ高温の日を撰んで植えるのが、その後の活着初期成育に有利である。

開田でも仕事の許す範囲で早期に植えられるのが良い。特に本年のつゆ明けは例年より稍遅目で九月中旬以降の気温は低く降水量も多目ということなので尚その感じが深い。

中耕除草……一般田ではヒエの防止除草労力の節減に除草剤PCPを使用するがよい。PCP、は活着初期成育不良な所では使用を中止するかこんな所では又は使用する場合は特に苗質を充分吟味して実施したければならない。

冷水田重粘土地帯、深植えになる所で、活着初期成育不良な田では（近年中耕除草不用論なども出ているが）早目に株元の「もとかき」「中耕除草」をやつてやることが必要である。除草の切上げを早目に実施し、その後のヒエ取りも遅れずに実施することが大切な除草の要領となつてくる。

二、四―D剤の除草剤も梅雨明けが遅れるので適期実施もむづかしいことになろうが、排水の良否を考え、水中二、四―Dや山間地ではMCP等の使用も計画し適期に実施出来る様準備する必要がある。

潅排水……活着迄の深水その後は低温時三〜五糎、高温時二〜三糎の浅水管理は従来と変らない。尚生育良好な湿田本湿田では、間断潅水も適宜考えたが良い、又山間地の冷水田では水温上昇剤OEDの活用も望まれ、階段状の棚田では山側の上畦付に明渠排水をつくつて冷登透水の防止策も必ず作つて欲しい。

乾田では強度の中干しは慎しまねばならぬ。

七月下旬つゆ明け前後に気温は急上昇し、八月中旬迄続き雨量も少目なので土壌窒素の急激な出方が心配されると同時に之に依る根腐も心配されるので湿田、泥田では特に注意が肝要である。

七月に入つての洪水、八九月の台風に伴う洪水も懸念されるので、之が危険地帯は充分な手当をしておくこと、又八月に入つて降水量は少目なので用水不足地帯では之が対策も怠らない様にすることが必要である。

過肥……特殊な土地を除いては過肥は稲の生育ペースを乱し稲体の軟弱無効分けつの増加を来し徒らに病虫害や倒伏の好餌となるばかりで「百害あつて一利なし」の結果が大部分であるから、例え全般に低温となり生育遅滞を来した場合でも充分慎んで欲しい。

山間地では山間地の、平場では平場の稲の生育ペースのあることを充分知つて欲しい。

穂肥……つゆ明けが遅れるため、穂肥のやり方も難かしくなると思うが、つゆ明け前の穂肥は例え必要な状態になつても少目に一回に施す量を二回に分けてやるような気でやつてもらいたい。

時に早生種は抹策が肝要である、湿田は警戒を要する。

此の時期には各指導機関の指示もあるので之に耳を傾けて実施して欲しい。

以上気象台より発表された長期予報（正しくは暖候期予報）及び之に対する栽培期迄の栽培上の簡単な注意事項です。

以上の天候予想を考えて見ますと、稲作前半は略昨年の天候と相似ておりますので、努力如何では昨年以上の作況も期待出来ると思いますので皆さんの折角の努力を期待したいと思います。

【註】近年気象観測の技術も進歩し、朝晩の予報は殆んど信頼して行動しても良い程の正確さになりました。而し六ケ月先の事迄この程度まで当ると考えてこの長期予報に余く寄り掛つて作業管理をされた場合、とんだ間違えも起きることもありますので、之を利用される場合は大略は長期予報で計画され細部の実際行動はその後発表される三ケ月予報、月間予報、旬間予報等で順次修正しながら間違えのない利用をして頂くことをお願いします。

小千谷地区農業改良普及所 文責 川瀬三夫

政府売渡米の余桝及び刺米について

政府売渡米に対する生産者の余桝の分量及び検査時のさし米の取扱については従来その取扱が統一されておらず論議されてきたので今般農業団体に於て量目の統一を指導すると共に、検査に際し生じた刺米についてはこれを生産者に返元する様食糧事務所長に要請中の処、これが容認され別紙の通り通知があつたので概要を御知らせ致します。

1. 刺米とは、買入検査時に於て農産物検査官が等級格付のため刺しとつた米穀とする。
2. 農産物検査官が生産者に返戻する刺米の量は現に刺取つた米の量目とし、刺米量として計算した量目、又は刺相当量としてあらかじめ入目した量目でないものとする。
3. 刺米の返戻は生産者に対して行うものとする。

但し生産者の受領委任状のあるもの、又は農協の総会の議決を経たものは代理受領者としての指定集荷業者への一括交付する。

尚この場合は指定集荷業者は生産者の数量を明記した受領証を食糧事務所出張所長に提出するものとする。

4. 指定集荷業者が刺米を一括受領する場合は、指定集荷業者はあらかじめ委任状又は総会の議決の写を食糧事務所長に提出して置くものとする。
5. 指定集荷業者に、刺米を一括返戻する場合は検査都度その検査場所に於て、刺米引渡等により受渡しを明確にして置くものとする。
6. 検査の際、正味量目六〇Kを欠くと判定したものについてはその検査を与えないことにする。
7. 乾燥調製などが不良のため、検査規格に適合しないため、生産者が米穀を持帰るものについてはすべてに該当する場合と雖も、生産者に返戻又は刺戻しするものとする。

附記 県農業団体より申入れた統一量目は、刺米相当量五〇g、圃先より運搬中の目こぼれ五〇g、計量機誤差見込量一〇〇gの二〇〇gである。

農業改良研究グループの本年度の事業計画の概要

去る三月二十五日に、川口町農業改良研究クラブ連絡協議会は川口町農業協同組合に於て総会を開き左記の事業を行なうことを計画決議した。

1. 役員会の開催 役員会は農繁期を除く毎月一回これを開催する。役員は各部落ごとにある営農クラブと四Hクラブの会長を以つて組織されている。
2. 講演会の開催 八月上旬に主題を斎藤関係として開催される予定である。特に現農業の改善上重要視すべき問題と考える。
3. 研修視察会の実施 講師は未定である。時期として七月下旬頃、予定地は西蒲原郡田上村の養豚地帯及び新津種豚センター（新津市郊外荻川駅前）とその附近、ふるつて参加をされ種豚に力を入れて頂きたい。
4. 営農改善大会の開催 時期は八月上旬かもしくは十一月上旬に実施をする。テーマーとしては「川口町の農業をいかに考えるか」この方法はパネルデスカッションの形式をとる。予定講師として川口町長、町農業委員長、町議会、酪農土木委員長、町内各農業協同組合長、小千谷地区農業改良普及所長等をお願いする。
5. 展示圃の設置 展示圃の種類は換金作物と飼料作物とする。展示圃の面積は二畝以上とする。展示圃の設置は西川口、東川口を合せて一ケ所、津山、和南津地区で一ケ所、田上川地区で一ケ所、田麦山地区で一ケ所の計四ケ所とする。
6. 農産物品評会の実施 町の計画に率先協力することとし、昨年同様時期は十一月三日、出品物及び点数は昨年同様十二点とし、外に稲株を二株加えることとした。但し営農クラブ員の研究品で共同出品であること。
7. 検討会の実施 十二月上旬に昭和三十五年度の反省を兼ねて、農業経営の改善等について検討会を開催する。

会長には引続き西川口の関塚代一氏が就任された。名会長の手腕を大いに発揮されて明日への農業改善の良き指導を賜る様お願いする。

★町の声★ 田植え休みについて

毎年のことながらわたくしたちの住むこの農村にもいくら手があつてもたりないという農繁期がやつてきた。この田植え時期になると農村の学校は臨時休校して子どもたちに手伝いをさせている。しかし低学年の子どもたちは手伝いすることもあろうが大半は家に遊ばせておいて、いろいろいたづら、若しくはあぶないことをしでかして、かえつて親は目をはなすことができないというナンセンスな現象がおこりうる。

戦後日本の子どもの基礎学力が低下したといわれ、とくに田舎の子どもは都市の子どもとくらべ程度が低いといわれていることはしばしばわたくしたちが耳にすることであるが、いわゆる一年中で一番勉強できるよい時期に、たとえ一週間といえども貴重な学習指導が行われず、自主性のない毎日をすごすことがどれほどマイナスになるかをじつくり考えて見たいと思う。

部落のほとんどが農業を営んでいるところはなにかと仕事をおぼえさせるにはよいチャンスかもしれないが、わたくしの住むこの部落は、農業はかぞえるほどしかない、いわば農村の特殊地域みたいなところではそれこそ収拾がつかないほどのにぎやかさだ。なるほど休み前には学校から休中の学習の割当をきめてもらい、それを行なうためには生徒間にいろいろな相談があるようだが、これは登校しての勉強には比べものにならないと思う。少くとも、いくら多忙の時期といつても幼い子どもまでその中にまきこみたくないものだ。そこでそれらの現状をよく調べてPTAなどで話合い適切な措置を考える必要があるのではないか。

一父兄

六月のこよみ

1日	たから保育園開園式
7日	ツ反 泉水小学校
13日	ツ反 小高山ノ相川分校
14日	ツ反 木沢小学校
20日	ツ反 相川、牛ケ島、田麦山
21日	ツ反 川口中学校
29日	宝保育園児検診
30日	民税（第一期）納入期限 巡回検診 診療所

リレー随筆 次は西川口婦人会長の星野サトさんにおねがいします。

◎おしらせ

1. 六月中旬から下旬にかけて検便を実施します。今各連絡員を通じて希望をまとめていますが、これから色々の食物が出まわり伝染病が発生しやすい季節になりますのでこの機会にぜひ検便されるよう係では望んでいます。
2. 成人式の写真が出来ましたので該当者には現金引きかえにお渡ししますので公民館事務所までお起し下さい。（代金は七〇円）

川口の教師の会

川口町教員協議会長 宮木喜一郎

私し共川口町の学校の先生は、七十八名います。三月末の異動で一〇名程出入りがありました。永年本町の教育に尽して下さつた先生方はみなところを得て転出され、その後任として新らしく都市より、或いは大学より立派な先生方を迎えることが出来て大変嬉しく思つています。

私し共はよく協力し、和の基盤の上に立つて教育振興のために努力を致して参りたいと思つています。私し共は親睦と研修を目的に協議会を作つて活動しています。本年度の研修内容の概略について申し上げてみますと、

1. 道徳教育の進め方
2. 社会科郷土資料の研究
3. 学年連絡会
4. 女教師の研修
5. 体育の研究
6. 視察見学旅行
7. 理科教育の研究
8. 音楽の研修
9. 保健委員会

以上のような内容で各自研究分野を定め、自主的に運営しています。又月一回の定例校長会は各校を輪番に会場とし、授業参観や連絡打合せを行ない、町の教育全体の進め方について協議し、教頭会は講師会合をもち、校務、教科内容について連絡し歩調を合せていくことに努めています。

私し共は川口町の実態を知ることにより、どんなところを重点として教育を進めていくか、又進めるため、どんなところに隘路があるか、その打開方法は、そして望む人間像に近ずけるための努力が学校内外で真剣に推進されているのであります。そこで急を要するものとして、中学生徒増による対策と小、中校の教科内容改訂に伴う施設設備の拡充であります。町財政上のこともありますが今迄の程度では実施上支障が起ると思われるのであります。他町村に比較して見て、施設設備の充実については、急を要すると思われるのであります。為政者並びに町民のみなさんからこの点深い認識をいただき、教科改訂実施に支障のない程度の拡充強化を強く要請致したいのであります。理解ある町民、良い教師、よい設備により子供がより幸福に成長出来ますよう、最善の努力と精進を致したいと思うのであります。

鬼は力持ち揃いです。金棒が軽過ぎる、内容と施設の充実した金棒を、そして力一杯ふりまわしたい。これが先生方の無言の声だと思うのであります。どうぞこの無言の声を聞きとどけていただきたいと心より念ずるものであります。

★ ★

ふるい立て青年団

……組織と運営の方向づけ……

今の青年は……などと稍の声を耳にするほど最近青年団体が大きな壁につきあたつているようだ。組織の問題、今後の方向づけ等悩みは多いがいつまでも壁につきあたつたままにただずんでいるわけにはいかない。一つ一つ問題点を見え出して、解決して新しい方向に進んで行かねばならない。

そこで先般青年団支部長会議を開催して意見の交換を行なつて見た。その結果、それでは川口町に現住している青年団体員年令に該当している人々を調査して、実際どの位居るのか、どうして青年団体に加入しないのかを研討することになつた。

特に青少年問題がやかましくとりあげられておる折、青年団の活動こそ町づくりの基本となるべきものであると確信する。勤労青年によつて組織されている青年団で、豊かな生活の中から生れた余暇善用を目的としたレクリエーション本位のグループ組織ではない。青年団活動は研修の場であるとともに、楽しみの場社会生活に直結されたものでなければならない。青年は私生活において何か困難な問題あるいは障害にあたるとすぐ「社会が悪い」とか「政治家が悪い」と自分のものまで人ごとに片付けてしまう傾向がある。社会が悪い政治が悪いという前に青年自身にも重大な責任があることを忘れてはならない。

何ものにも左右されない正しいものの見方、考え方、政治学習が必要であり、何事も自分の責任を認識して行うことが必要である。こうしたことを基盤とし、効果的な運営を図るため小集団活動、即ち支部活動に重点を置き、支部組織の強化を推進し、併せて自主性確立の見地より、文化家政、趣味、広報、体育の各専門部を主体としての活動を進めたいものである。

事業計画については団員の自主性を高め全団員の行事であるよう各専門部役員と支部委員とにより計画立案され、執行部は町の行事、郡団の行事等を考慮し、運営に当つては各専門部別に総ての行事を行い、執行部はその補佐役に当る等の方法が望ましいのである。このような方法によつて川口町在住の中学卒業から二十五才迄の男女全部が青年団員として、町一丸となつて青年団を築き上げ、将来の川口町を背負つて立つ青年として躍進して欲しいものである。

★ ☆ ★ ☆ ★

日本学校安全会法施行さる

学校安全会法という法律が施行されて本年度より実施することになりました。この法律は児童、生徒が家庭から登校して夕方帰宅する迄の間に学校其の他によつて生じた災害を保障する法律であります。学校から帰宅迄の間、即ち校長の管理下に於いて生じた災害に限り該当しますので、詳細は各校長先生からPTA会議等によつてつまびらかに御説明されることゝなつておりますので御了承願います。

PTAだより

五月二十一日午後三時より川口中学校において、川口町PTA連合会議が開催され役員の改選、農繁期休業等について協議した。

一、役員改選（決定）

川口町連合PTA
会長 関平吉
副会長 佐藤正勝

二、農繁期休業について

時代は移り変り、農業経営の合理化、農業の機械化、電気化等によつて農業の労力に相当の余剰労力を生じこの余剰労力を如何に活用するかが今後の農家経営者の大きな課題である。

このように進歩した現在、戦前や終戦後のあの苦しかつた古い殻から脱けきれないで、未だに児童の労力を農繁期に欲しがるような考え方を改めよう。可愛い子供の教育のためにも、労力に依存するようなことは父兄として深く反省して、これらを速かに解消して、正常な道に復すべきが急務であることについて、川口小学校で父兄に対しアンケートをとつたら九十一％迄が農繁期休業を廃してくれという立派な統計が出た。そこで今年から川口小学校は休業廃止を即時断行した。その他の学校も各地域性を考慮してなるべく休業日を短縮することにし、来年から各学校一斉に農繁期休業を廃止することに決定したのである。父兄の理解ある御協力を希うものである。

教育委員会としてもこの点について審議した決果、今年は低学年だけ登校させて来年は全廃という意向であつたが各校の地域性と慣習で即時実行は困難なものがあるので、その校区内の実状に則した方途を講ずるよう校長に通達してある。

私の歩いた50年を回想してみた 関平吉

―リレー随筆―

生家が代々商売のことから高等小学卒業後、直ちに東京市内の問屋へ見習奉公した。（今より四十五年前）家事の都合で帰国した其の年上越線開通が越後川口駅まで延長した。物好きの私しは志願して、初代大野駅長の下に就職、二ケ年足らずで徴兵として近衛師団鉄道連隊に入隊した。其の年関東大震災に遭遇、戒厳令下に出動、東京、横浜、横須賀方面の鉄道及び橋梁の復旧作業に従事した。

大正十三年十二月除隊同十四年川口村役場に就職、約八ケ年書記として勤務した。以下は職後の略歴を書いて見よう。

一、新潟県自治講習所修了
一、川口村外二ケ村職業紹介所主事並びに新潟県職業補導員等
一、帝国在郷軍人川口村分会副会長（約十二年）
一、川口村消防組第五部小頭
一、川口村青年学校学務委員
一、日支事変応召北支、南支と従軍三ケ年余満過陸軍工兵伍長に進級
一、日支事変の勲功に依り勲七等青色桐葉章並びに従軍記章と一時賜金三五〇円賜る
一、大政翼賛会川口村常任理事並びに川口村翼賛壮年団長
一、川口村々会議員当選並びに川口村方面委員就任
一、昭和二十二年十一月勅令第一号に依り公職追放の指定
一、川口信用購買利用組合川口村農業会川口村農業協同組合主事に勤務（約八ケ年）
一、昭和二十六年公職追放解除の指令通知
一、川口町教育委員並びに川口町公民館長に就任
一、川口町商工会副会長（約一五ケ年）川口町和南津地区分館長川口中学校PTA会長和南津部落惣代として現在にあり。

以上あらましであるが、いわば人称して「物好き」とも言うべきものであろうか、商売そつち除けにして居る現在である。

部落理事者として任期中の三大目標を左に掲げ目的完遂を期し、部落民の協力を願いたい。

一、時間確守の励行
二、公民地区分館施設促進
三、道路の愛護と維持修理

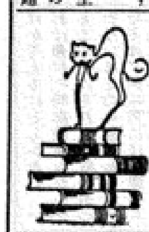
やせても かれても

一日一日と日を追うごとに緑が日にしみるといつた形容がぴつたりする。まことにしのぎよい季節がやつてきた。長い冬の眠りからさめて活動の季節でもある。窓をあけると涼しい風が肌に心地よい。ゆつくり煙草のけむりをはき乍ら今日一日の仕事の計画をあれこれと頭の中に思い浮かべ家の玄関を出るといつた日頃を送つている私である、オッと私がなんであるかを明らかにしない不調法をしたが、それは賢明な読者がおしまいまでまずいまずいと思いながらも読んでくださるならあゝあいつであつたかとお気づきになるだろうから。（決つしてモッタイぶつているわけでないのですからあしからず）

さてこの辺からのどでもうるをして……と浪曲師ではないが、ポツリポツリと豆かむように本論へと参りますか。

私しの職場は巾一間半長さ二間というきわめて小さい部屋で、そこに三人が冬期分校を含めて十四の学校と二〇五三人の児童、生徒を相手に総員七十八名の先生方と笑つてみたり、何んだかモヤモヤしてみたりしながら仕事をしている教育委員会である。これがなかなか容易なものでないということが最近になつてようやくわかりかけて来た。これだけでは読者にはチトおわかりにくいだろうが、それは後日改めてということにしてその他にまだ手に負えないような、そうかといつて放つておくわけにはいかないものがガンと控えているのだから。それは"公民館である"。この仕事は……切つたところから血の出るような、打つたところがはれるような目に見えるものでないので困るのである。私しがこの仕事をやつてみろといわれたのが今を去る二年前昭和三十三年の四月である、以来今日迄ただどうしようこうしようと考えるだけで来たような気がして自分の無能力にあきれ冷汗が出るような時もある。今自分で自分の頭を叩くとどうしよう、こうしようと音がする。教育費一千万円のうち社会教育費約八十万円住民一人当り百円近くの金額になる。決して多い方ではないが少ない方でもないと思つている。もつと何か出来そうなものだが、どうしよう、こうしようの音だけで何もないという現状であること、しかも三人という小人数であるあることと貧弱な現状を形づくつているものが上げられるが、先づこの辺から解決していかなければあぶはちもとらずで計画倒実行というわけにはいかないようだ。自分がその渦中にあつてあいてここで言いたくないがたしかにそんな気がしてならない。昼は机に向つて教育委員会の仕事をし、夜はレコード、電蓄を持つて民踊、フオークダンス、映写会と走り廻るのである。知る人達は口々に「よういでねえの……」という。たしかによういでないし、無理もしたくないが、ちやんとしていると何も出来ないじやないですか自分では動いているつもりでも何も出来ないのに動かなかつたらどうなるだろう。こんなもんです公民館というのは。

どうしたらみんなで幸福な生活を送られるか、それぞれの毎日のくらしの中にある問題点を出し合い、話し合い、解決していくのが基本方針であるが一口にいつてもなかなかのみこめない。そこに社会教育のむつかしさがあり、それを知らせ、よりよい相談相手となつて行かなければならない担当者の困難さがある。

今夜も民踊、明日も又民踊とチエンチエコチエンの連続である。昨年県の指定をうけて社会体育の中の重点にこの民踊をとり上げたのであるが今年は最後の年でもあるしもつと一歩進んだものへとその内容を修したいと考えている夜、昼の別ない現在なので、あゝ今夜はいやだと思う事も本当にある。会場迄の道のりをいやだ、いやだと思い乍ら行くことだつてある。しかし帰りはまるつきりちがう、いろいろな人たちと話し合い、うたい、おどつたりしているうちに"いやだ"というのがふつとんでしまう。帰りには降る様な星の下をあゝだつたこうだつた、こんどはこうしようと反省する。つらいと思うことよりあとのよかつたという気持の方がはるかに大きい、それが今の私を支えてくれていると思う。しかもそんな時がいちばん幸せだと思う。つまりやせてもかれても仕事を愛すという飲びでしようナ。この道に入り二年というまだ何んだかんだという資格も勿論ないが、どこまでやれるか自分をためすことゝ出来るなら。現在がもつとも自分を成長させる一つの段階であつてほしいものだと思つている。

幸いにして立派な上司に恵まれ存分にやれそうである。現在無駄という壁はあるが、主体性を十分に認識しあばれてみたい。そして今度頭を叩いたら社教、社教、と音がするように。